



群馬県中小企業団体青年協議会 冬季研修会・新年会

群馬県中小企業団体青年協議会（境野泰照会長）は、1月30日、高崎市・ホテルメトロポリタン高崎において、冬季研修会・新年会を開催した。

今回は、「ラグビーから学ぶ強い組織の創り方」個と組織のあり方」をテーマに、NPO法人ワールドナイツスポーツプロモーション代表理事・三宅敬氏を講師に迎え研修会を行った。

◎三宅氏は、プロ選手として三洋電機ワールドナイツ（現・パナソニックワールドナイツ）で活躍し、日本代表にも選出された経験を持つ。現役引退後に同法人を設立し、主に子供たちを対象にラグビーの普及活動を行っている。
ラグビーを通して礼儀・マナー等を学ぶことで、スポーツ選手としてだけでなく、一人の人間として成長させることに重点を置く。



三宅 敬氏



境野会長

まず三宅氏は、「ラグビーは様々な個性や特性を生かし、仲間と協力して強いチームを作ることが信念であり魅力。これは会社でも同じことが言える」と述べた。

次に、強いチームを作るためのポイントとして、「明確な目標設定と行動内容の見直しが重要。チーム内での目標の共有はモチベーションアップにつながり、目標達成までの道筋と次への行動が明確になる。また、行動内容の見直しの際には悪い点を指摘するよりも良い点を伸ばすことを考えるのが大切。特にミーティングにおいて、良い点を述べてから改善点を挙げるのが効果的である」と説明。

さらに、コーチングの方法について、「お互いの意思や感情、思考を伝達し合う双方向コミュニケーションを行うのが基本となる。特に、質問を投げかける際には制約

を設けず、相手が自由に回答できる『オープンクエスチョン』を心がけることが望ましい。これにより、相手が自ら考え、行動する存在になれる」と強調した。

最後に、「組織の中には、その人にしかできない役割が必ずあり、原石の宝庫とも言える。様々な個性を持つ原石を磨き、ダイヤモンドのように光り輝かせることで、より強い組織を作ってもらいたい」と締めくくった。

研修会終了後、新年会を開催。境野会長が主催者挨拶を述べた後、商工中金前橋支店次長・渡辺強氏が乾杯の発声を行った。参加者相互の交流・懇親を図り、久保田雅幸直前会長の中締めで閉会。最後まで大いに盛り上がりを見せた。



個店の商売繁盛なくして 商店街の活性化なし！



～群馬県商店街振興組合連合会 研修会・新年会～

群馬県商店街振興組合連合会（今川守会長）は、2月1日、高崎市・ホテルメトロポリタン高崎において、研修会・新年会を開催した。

はじめに、まき鯛車商店街／はしもと玩具店代表・橋本貴之氏が「個店の商売繁盛なくして商店街の活性化なし！」をテーマに講演を行った。



橋本貴之氏

橋本氏は冒頭、若い人を中心に商店街の利用者が減少しているという厳しい現状に触れつつ、「商店街の活性化はコンサルタントや行政、イベントに依存しては実現しない。また、そもそも活性化がどのような状態のことを指すのか定まらないまま進めて失敗するパターンも多い。活性化された商店街とは『繁盛店が軒を連ねている状態』のこと。それを実現するには、長期的戦略のもと、商売の

基本に立ち返りながら店づくりを行っていく必要がある」と述べた。



活性化に向けたヒントを模索する参加者

続いて、商品計画や宣伝活動を行う際のポイントとして、「顧客ニーズの中には、百貨店や大型モール等が対応できていない隙間があり、そのニーズを満たすことができれば、差別化を図り、生き残っていくことができる。差別化を図る上で重要なのは、『何を売りたいか』ではなく『誰に売りたいか』という考え方。この観点で考えることが自然とお客様目線に立つことになる」とアドバイスした。最後に、「活性化に向けて努力し

ている店舗もあるが、リサーチ不足や努力の方向性のズレ等で成果を挙げられていないケースも多い。大事なのは、活性化の成功事例をただ真似るのではなく過程を学び、常にベターを追いつめていく姿勢。個々の店舗が輝けば、商店街全体も明るくなる」と締めくくった。



新年会では活発な交流が行われた

研修会終了後、講師・来賓等を含め31名の参加により新年会を開催。今川会長の挨拶に続き、群馬県産業経済部長・塚越正弘氏が来賓挨拶を行った後、中島庸一副会長の乾杯で開宴。和やかな雰囲気の中、相互の懇親・懇談が図られ、盛会裡に終了した。